	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 １．理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	近隣、町内会を通しての交流を図りつつ、生活の共存を願うねらいから町内通信を続けている。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティングを行い、ケアについての意見の統一を図っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	町内会の会合、地域の集まりやイベントの参加の他、折に触れている。 町内会のイベント等に参加しています。		
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常の挨拶はもちろん、ベルⅡ新聞を町内会の回覧板として回してもれう。無農薬の野菜をおそすわけして頂いた。 ベルⅡ新聞を回覧板として回してもらった。ベルⅡ夏祭りを開催し町内の方にも声を掛け、子供・大人とたくさん参加して頂きました。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域（町内会）の清掃、花植え等に職員、利用者様と一緒に参加している。	○	地域の小学校、保育園の行事等にも参加したい。子供SOSの避難所として登録する予定。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	人材育成の貢献として、実習生の受け入れを積極的に行っている。地域運営推進委員会を行い、認知症や介護保険等について勉強会を開催している。	○	地域の研修に参加し、認知症ケアの啓発に努めたい。（利用者のプライバシーを十分配慮しながら）

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義や目的を職員全員が理解し、職員全員で評価を行っている。外部評価の結果をもとに、改善すべき事を職員全員で検討し実施出来る様努力している。 自己評価及び外部評価を行っている。		
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回会議を開催し、ホームの様子、行事、サービス内容を報告している。色々な意見を頂き、検討事項は、職員と話し合いサービス向上のため努力している。 2ヶ月に1回運営推進会議を行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	連携はなかなかとれていないのが実情である。課題解決のために、困難な事があった時は常に連絡を取らせて頂いている。	○	市町村との連携
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域が開催している。成年後見制度の研修に参加したいと考えている。その後、職員と勉強会を開催したい。	○	研修の参加
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ってはいないが事業所内での虐待がないように注意を払い防止に努めている。 高齢虐待防止関連法についての勉強会やミーティング等の実施を検討		
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている。	時間をとって説明をしている。特に料金、リスク、看取り、医療連携体制の実際等については詳しく説明し、同意を得るようにしている。 契約に関する説明は時間を十分にとり行っています。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心掛けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月家族への通信を出して健康状態等の近況報告をしている。職員の異動があった時にはその都度お知らせしている。ベルⅡ通信を毎月出しています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族には通信や訪問して頂いた時に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りをしている。出された意見等は職員間で話し合い、反映させている。	○	意見、不満、苦情等を話して頂く家族会を発足したいと考えています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃からコミュニケーションを取り、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態やペースに合わせ、その都度必要に応じて職員の配置を考えている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職がやむを得ない場合は、その時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容　・　実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所外での研修にはなるべく多くの職員が受講出来る様にしている。	○	事業所以外での研修の参加
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	日常的に同業者との交流を図り、民会協に参加している。	○	他の運営者との交流を続けたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日常業務や申し送りの際から、職員のストレス・悩みを把握するよう努力し、十分に話を聞いて職員個々対応している。職員同士の人間関係が良好になるよう食事会などを開いている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	会社費用負担で、健康診断・インフルエンザ予防接種の実施を促している。	○	確実な実施に向けて、今後も努力する。
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援 １．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談で本人の思いに向き合い、受けとめ理解しようと工夫している。全職員が情報を共有している。 アセスメントシート・センター方式を利用。カンファレンンスを開き情報を共有。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	これまでの維持についてゆっくりお話しを聞くようにして不安な事、求めている事等を聞き、信頼関係を築くようにしている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時には本人やご家族の思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を行い、必要であれば他の事業所のサービスにつなげて行く。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	安心な場所、信頼関係が成立出来る様努力し、少しずつ馴染みの関係になれた時点で、色々とサービスを開始している。家族との関係も同様で、密に連絡を取らせて頂き相談もしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	毎日の生活の中で共に喜び、不安を分かち合えるように努力し実行している。「私達は介護してあげている」という気持ちは決して持たないようにして、人生の先輩であるという考えで過ごしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日々の生活を出来る限りお伝えし、利用者の現状をお話している。利用者を家族と同じ気持ちで支えている事も伝わっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の日常生活等を通信等で報告・相談し、行事には家族を誘ったりしながら、より良い関係が築いていけるように支援している。通信、面会等で報告・相談をしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や知人等に訪問して頂いたりする等して関係が途切れないように支援している。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個別に話を聞いたり、レクリエーションを行って交流を図る等して利用者同士の関係がうまく行くように支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	意思疎通が困難な利用者には、家族の方から情報収集を行う。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、家族の方から情報収集を行う。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族にどんな生活をしていたのかを聞いて情報収集し、把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	情報だけにとらわれず、出来る事、出来ない事を生活面等から収集し把握に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族から日常のかかわりの中で、思いや意思を聞き反映させるようにしている。職員間での意見交換を行いモニタリングをしている。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて見直しを行い、何か変化があった時には見直し、追加等をして作り直しをしている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意して、身体的状況、生活状況等を記録して、いつでも職員がみれるようにしている。それ以外にも申し送りノートを作成し、何か気づいた事を書き込んで頂くようにしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人と家族の暮らしを守るため、必要な支援を提供できるよう前向きに支援している。訪問看護・訪問診療（医療連携体制）。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○　地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域で暮らしていけるよう、民生委員・町内会会長と相談しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の状態や希望に応じて、訪問理美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化された。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容　・　実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医になっている。通院、受診は本人、家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行している。医療機関と契約していて毎週木曜日に訪問看護、隔週の金曜日に訪問診療に来て頂いている。訪問看護と訪問診療に来て頂いています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	訪問診療医師と常に連絡を取らせて頂き、相談をしたり指示を頂いている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。医療機関とも契約していて毎週木曜日に訪問看護、隔週の金曜日に訪問診療に来て頂いて健康管理をしている。訪問看護と訪問診療に来て頂いています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を提供しなるべく日常生活状況、リズムが変わらないように支援して頂くように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に対する対応指針を定めて家族等に説明している。重度化や終末期に向けた指針を定めています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること･できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師と職員が連携を取り、随時意思を確認しながら取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族及び本人から生活の状況を聞き、職員へ情報を共有させてなるべく住替えによるダメージを軽減するように取り組んでいる。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	日々の生活の中でプライバシーを損なう声掛けや、対応などをしないように心掛けている。又、ミーティングの際、職員間でチェックをし具体的に話し合っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	なかなか言葉が出てこなかったり、意思決定出来ない利用者もいらっしゃいますが「待つ」という気持ちを持って職員は支援している。表情や目の動きを見逃さないようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のその日の状態や考えを大切に配慮し考えている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容は本人の望んでいる店へ行き、パーマ、カット、毛染めをしている。身だしなみやお化粧等は、本人の気持ちに沿った支援をしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立作り、調理、後片付けを職員と一緒に行っている。楽しい食事が出来るよう職員も同じテーブルを囲んで食事をしている。（雰囲気作りを大切にしている）献立作り、調理、後片付けを職員と一緒に行っています。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの嗜好物を職員は理解しており、本人体調や希望にそって用意している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間の習慣、しぐさ、表情を把握してトイレ誘導をし、トイレでの排泄を促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの体調や気分に合わせている。ゆったりとした気持ちで楽しめるよう支援している。御夫婦は一緒に入浴し楽しい時間を過ごしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中活動するように促し、夕方からはゆったりとした時間を過ごして、休息がとれるように支援している。寝付けない時は足浴をしたり、ホットミルクを飲んで頂いたりしている。		
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	今までの生活暦や得意分野から一人一人の力を発揮して頂けるよう支援している。感謝の言葉を伝え、達成感や喜びを感じて頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族よりお金を預かりホームで管理しているが、外出時や欲しい物を購入する際は、自分で支払い満足な気持ちを感じて頂いている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容　・　実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や本人の体調に応じて散歩をし、季節を感じてもらっている。お弁当を持っての外出、ドライブもしている。短時間でも「外へ行きたい」という希望がある場合はその都度、職員は支援しています。散歩、ドライブ等を取り組んでいます。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	予め計画を立て、職員の勤務調整、人数を確保し遠方の外出も支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をしやすい雰囲気を作ったり、職員から声掛けをしている。プライバシーに配慮しながら個別に支援している。葉書きや切手を一緒に買いに行き、ポストに投函する支援も行っている。電話は好きな時に掛けて頂いています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問して頂けるような雰囲気を作るように心掛けている。職員の笑顔が一番大切と考えています。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティング、申し送り等で身体拘束をしていないか常に職員間で確認している。「言葉での拘束」もしないケアを職員間で共有している。身体拘束ゼロ推進委員会を設置しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が外出したそうな時は、一緒に散歩をしたり、見守りを徹底している。日中は玄関の鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。外出したそうな時には一緒に散歩したり見守りをしている。日中は玄関の鍵は掛けていない。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら全員の状況を把握するように努めている。夜間は数時間毎に様子を確認し休憩は廊下のソファーで休む等して工夫している。夜間の見回りは数時間毎に行っている。休憩はホールのソファーでしている。		
68	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁や洗剤等の所には鍵を掛けることはしないで、職員の見守りの中管理、保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットの用紙はあるが記録として残すという事をあまり積極的には行っていない。事故が発生した場合には、事故報告書を作成し、事故原因の予防対策について職員間で検討し、家族への説明と報告を行っている。	○	ヒヤリハットの記録が出来るように取り組んで行きたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て救急手当てや蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応出来る様にしている。	○	2、3年に1回は研修を行い復習の意味も兼ねて実施出来るように取り組んで行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。	○	年2回避難訓練を行っている。地震、水害等の災害時の訓練を取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	自由な暮らしの大切さを優先している事を具体的に家族に説明している。対応策としては家族と一緒に考え話し合い、電話連絡を密にとっている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を把握しており、顔色や様子を常に観察している。変化が見られた時はバイタルチェックをし、看護師、Dr. に連絡、指示を頂き、情報は職員間で共有出来る様になっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が把握出来るよう処方箋を保管し、目を通せるようファイリングしている。又、薬の変更や用量変更の際は、職員全員に報告したり、申し送りノートに必ず記載し副作用も伝えている。申し送りノートの活用。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日ラジオ体操をしたり、掃除も職員と一緒にして体を動かして頂いている。入床前の酢牛乳、起床時のカスピ海ヨーグルトを摂取されている。又、繊維質の多い食材を調理する事も工夫している。毎日ラジオ体操をしている。酢牛乳、カスピ海ヨーグルトの摂取。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアの必要性を職員全員理解し、支援させて頂いている。毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、お一人お一人の能力に応じて支援している。訪問歯科にて定期健診も行っている。毎食後口腔ケアをしている。訪問歯科にて定期検診を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事内容を記録し、一人一人の摂取量の情報を共有している。生活習慣や日頃の様子を観察しながら個別支援する事もしている。食事内容の記録をしている。食事量の記録をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等）	インフルエンザワクチンは家族同意の下、毎年接種している。（職員も全員） ノロウイルス対策として早期より消毒等予防を徹底している。通年ペーパータオル使用 インフルエンザの予防接種をしている。ノロウイルスの対策をしている。感染予防対策マニュアルを作成している。ペーパータオルを使用している。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器洗いは熱湯消毒を毎回している。布巾、まな板は毎晩漂白消毒している。清潔・衛生方法を取り決め実行している。冷蔵庫、食材庫を常にチェックし、消費・賞味期限の点検をしている。 食器は毎回熱湯消毒をしている。布巾、まな板は毎晩漂白消毒している。冷蔵庫、食材庫のチェックをしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	特殊な場所、住み家と感じる事がないようにプランターで花を育てたりしている。玄関前にはテーブル、椅子を設置し、暖かい日は外で利用者がお茶を飲んでいるのを見て近隣の方が声を掛けて下さる。 天気が良く暖かい日には玄関前にてお茶会等を行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を利用者に生けて頂いている。台所、居間が同フロアの為、料理の匂い、音を感じ取る事が出来る。懐かしい曲を流している。季節の花を生ける。懐かしい音楽を流している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールにソファーを置き、気の合った利用者同士でお話をしたり出来るスペースがある。又、2Fホールではソファー、TV、ゲーム用品があり、ゆったりと過ごせる空間もある。1F、2Fとソファーを用意してあるのでその場所を有効活用していく。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	基本的に馴染みの家具、寝具を入居時用意して頂く事になっています。写真、小物等利用者の大切な物等置いて頂き、安心で居心地の良い居室を作り上げている。これからも利用者の馴染みの家具、寝具を用意して頂くように家族と話合って行くようにする。		
84	○換気･空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	自室にポータブルトイレを使用されている利用者のお部屋では空気清浄機を使っている。常に温度、湿度チェックを行い換気をしたり、暖房調整をしている。職員の感覚ではなく利用者の感覚を考え応じている。居室の臭いが気になる時には空気清浄機を使用する。温度、湿度のチェックをしている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	民家改修型グループホームの為、出来る限り工夫をしている。常に利用者の「現在の状況」をチェックし、転倒や危険な事がないか目を光らせ生活環境を整えている。	○	浴槽の段差（入口付近）を改善しなくてはいけない。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自立した生活、混乱を招いて不安にならないよう職員全員で話し合い、工夫をし環境整備にも努めている。また違う状況になった場合はその都度、考え実行している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑で野菜を育てたり、プランターにて花を育てている。玄関前では、天気の良い日はテーブル、椅子を用意してお茶を飲んだり、昼食を召し上がったり、ゲームをしたりしている。今年は花火や盆踊り大会、夏祭りも開催した。外に出ての活動は利用者にとってとても嬉しいことなので、天気の良く暖かい日は出来るだけ外での活動を行っていきたい。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ②家族の２／３くらい ③家族の１／３くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の２／３くらいが ③職員の１／３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２／３くらいが ③利用者の１／３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２／３くらいが ③家族等の１／３くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点
等を自由記載）